

評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所名	グループホームあっぷる		
所在地	宇部市昭和町1丁目9番3号		
電話番号	0836-35-7689	事業所番号	3570200703
法人名	医療法人 仁心会		

訪問調査日	平成 20 年 1 月 21 日	評価確定日	平成 20 年 6 月 20 日
評価機関の 名称及び所在地	特定非営利活動法人やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク 山口県山口市宮野上163-1-101		

【情報提供票より】

(1) 組織概要

開設年月日	平成 13 年 4 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員計	18 人
職員数	18 人	常勤 6 人 非常勤 11 人 (常勤換算 10.7 人)	

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り		
	3 階建ての	2 ~	3 階部分

(3) 利用料等 (介護保険自己負担分を除く)

家賃	月額 29,000 円	敷金	無	円
保証金	無	円	償却の有無	無
食費	朝食	150 円	昼食	650 円
	夕食	450 円	おやつ	50 円
その他の費用	月額	9,500 円		
	内訳	光熱水費6500円寝具清掃及び洗剤費3000円		

(4) 利用者の概要 (1月21日現在)

利用者数	17 名	男性	0 名	女性	17 名
	要介護 1	2	要介護 4	3	
	要介護 2	8	要介護 5	0	
	要介護 3	4	要支援 2	0	
年齢	平均 84.5 歳	最低	73 歳	最高	99 歳

(5) 協力医療機関

協力医療 機関名	医科 南園クリニック・仁心会病院 歯科
-------------	------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

(優れている点)

母体が医療法人であり、訪問看護師の派遣もいつでも可能とするなど、24時間の医療連携によって、健康管理が行われています。かかりつけ医への受診の支援を行うなど、特に、医療面において家族の安心感が得られています。近くの幼稚園児との交流、隣接の公園や寺院への散歩と、恵まれた環境の中で、穏やかに生活されている様子が伺えます。

(特徴的な取組等)

ホームは2ユニットで2階と3階で、自治会もそれぞれ独立して加入し、運営方法も、管理者の独自の考え方で行われています。2階のユニットでは各部屋に大きい時計が備えられ、時間を大切にしながらけじめのある生活が送られるよう工夫がされています。いろんなボランティアを活用することにより、絵手紙、カラオケ、踊りなど楽しみが持てるよう工夫がされ、今年利用者が書いた絵手紙の年賀状を家族に届けています。

【重点項目への取組状況】

(前回の評価結果に対するその後の取組状況)

緊急時対応マニュアルに従い、夜間想定避難訓練や、消防訓練、普通救命講習会を行っています。カンファレンスは毎月1回行い、必要な場合は随時行うよう改善されています。到達目標については、短期、中期目標を明確にし、評価も6ヶ月ごとを3ヶ月ごとに見直すこととして、改善されています。

(今回の自己評価の取組状況)

自己評価の意義についてしっかり説明した上で、自己評価表を各自に配布、その後全職員でミーティングを行い管理者がとりまとめています。

(運営推進会議の取組状況)

運営推進会議は、出席者の参加を考えて、平日と休日を交互に、2ヵ月に1回開催し、メンバーは、民生委員、自治会長、地域包括支援センター職員、利用者、家族、職員で構成され、地元の自主防災組織の立ち上げに、関わるなどの協議をしたり、外部評価や活動報告をして意見を聞いてサービスに活かしています。

(家族との連携状況)

家族会はありませんが、1年に2回食事をし、家族同士の交流もしています。ホーム日より、生活状況、金銭管理報告などを送付したり、面会時にも生活状況や金銭管理などの報告をしています。また、ホーム行事にも家族の参加をお願いし、協力が得られ、家族との連携が良く取れています。職員の異動についても報告がされています。

(地域との連携状況)

ホームは2ユニットそれぞれ自治会に加入して、回覧板のやりとりから、地域行事にも参加するなど、連携が取れています。ホームのすぐ前に公園があり、地域の人も良く集まり、そこで顔なじみになって交流したり、近くの幼稚園児との交流を行っています。また、近所のお地藏様にお参りしたり、スーパーに買い物に行ったりして、お子さん連れやお年寄り知り合いになっているようです。

評価結果

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>理念に基づく運営</p>			
<p>1. 理念の共有</p>			
<p>1 (1)</p>	<p>地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。</p>	<p>利用者の人権を重視したサービスと、地域の方が気軽に立ち寄れる地域に根ざした事業所とすることを独自の理念として、2ヵ月前に、職員全員でつくりあげている。</p>	
<p>2 (2)</p>	<p>理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>	<p>理念を玄関・スタッフルーム・日報に掲示すると共に、毎朝の申し送りの際に全員で唱和するなどして、共有を図っている。また、ミーティングを通じて、具体的なケアについて確認し実践に向け取り組んでいる。</p>	
<p>2. 地域との支えあい</p>			
<p>3 (7)</p>	<p>地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p>	<p>自治会に加入し、回覧板のやりとりから、文化祭、納涼祭、運動会、どんど焼きなどの地域活動行事等に参加し、公園周辺の草取りや落ち葉広いの清掃を行ったり、散歩時の挨拶など、地域との交流をしている。</p>	
<p>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</p>			
<p>4 (9)</p>	<p>評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p>	<p>運営者、管理者、ユニットリーダーは評価の意義を理解し、評価を活かしながら全職員でミーティングを行い、具体的な改善に取り組んでいる。</p>	
<p>5 (10)</p>	<p>運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービスに活かしている。</p>	<p>運営推進会議は、出席者の参加を考えて、平日と休日を交互に、2ヵ月に1回開催している、メンバーは、民生委員、自治会長、地域包括支援センター職員、利用者、家族、職員で構成され、地域の自主防災組織の立ち上げに、関わるなどの協議をしたり、外部評価や活動報告をして意見を聞いてサービスに活かしている。</p>	<p>・運営推進会議メンバーの拡大</p>
<p>6 (11)</p>	<p>市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町と共にサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>	<p>担当部署とは日頃から電話等で相談している。市の主催のセミナーが、2ヵ月に1回程度開催され、職員が交代で参加することで連携している。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践する為の体制			
7 (16)	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	家族会はないが、1年に2回食事会をし家族同士の交流もしている。ホームだより、金銭管理報告などを送付したり、面会時にも生活状況や金銭管理などの報告をしている。また、ホーム行事にも家族の参加をお願いし、協力が得られ、家族との連携が良く取れている。職員の異動についても報告している。	
8 (18)	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させているとともに、相談や苦情を受け付ける窓口及び職員、第三者委員や外部機関を明示し、苦情処理の手続きを明確に定めている。	家族の苦情や意見は、苦情受け付け窓口担当者を明示し、家族会などの機会を通じて、外部機関の利用について周知するよう努力している。苦情処理手続きの明確化や第三者委員の選任はしていない。	・苦情処理手続きの明確化 ・第三者委員の選任
9 (20)	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう夜間を含め必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。	職員を確保し、利用者や家族の要望に沿うようにしている。急な時間帯や休みには職員間で調整し適切に対応している。	
10 (21)	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、変わる場合は利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	職員の異動は、最小限に抑えるよう心掛け、退職者には1ヶ月よりも早めに報告を受けるとして、引き継ぎ期間を作り、影響のないよう配慮している。	
5. 人材の育成と支援			
11 (22)	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	運営者は、職員研修の機会の提供や働きながらのトレーニングを進めているが、計画的、段階的な研修は行っていない。	・計画的、段階的な研修の検討
12 (24)	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	同業者との交流を設け、勉強会等を通してサービスの向上に取り組んでいる。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>・安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</p>			
13 (31)	<p>馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。</p>	<p>入居前に本人と家族にホーム内の見学やお茶を飲んでもらったり、レクリエーションに参加してもらうなど、馴染めるように工夫している。</p>	
<p>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</p>			
14 (32)	<p>本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。</p>	<p>食事の支度や調理方法、だし取り後の利用法など、職員が本人から学んだり、日常の会話や話しあいの中からお互い一緒に過ごしながら、喜怒哀楽を共にし、支えあう関係を築いている。</p>	
<p>・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1. 一人ひとりの把握</p>			
15 (38)	<p>思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。</p>	<p>利用者との日々の会話の中から聴取したり、家族に来訪時や電話で意向を聞いて、個人ファイルに記載し、一人ひとりの意向の把握に努め、困難な場合は、スタッフ間で本人本位に検討している。</p>	
<p>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</p>			
16 (41)	<p>チームで作る利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。</p>	<p>利用者には日々の関わりから、家族からは来訪時や電話で意見を聞いて、月1回ケアカンファレンスを開催し全職員で話し合い、意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。</p>	
17 (42)	<p>現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行なうとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。</p>	<p>3ヵ月ごとの見直しを原則としているが、月1回のカンファレンスで評価し、現状にあった計画を作成している。また、状況の変化により随時見直しも行っている。</p>	
<p>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</p>			
18 (44)	<p>事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。</p>	<p>受診の送迎と付き添い、買い物、理美容院の送迎を支援している。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
19 (49)	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	本人・家族の希望を大切に、かかりつけ医の受診支援や協力機関と連携し適切な医療が受けられるよう支援している。	
20 (53)	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	重度化や終末期にむけては、本人家族には入居時にホームの方針を説明し、重度化した場合は、医師や家族と相談し対応している。	
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重			
21 (56)	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。	一人ひとりのプライバシーを損ねないよう、スタッフ全員で話し合い支援している。個人記録等の取り扱いにも配慮している。	
22 (59)	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	ホームのプログラムは、おおまかに決めているが、希望に沿って、朝食時間や入浴時間を工夫するなど、一人ひとりのペースを大切にして支援している。	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
23 (61)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	一人ひとりの好みを本人や家族から聞き、献立にも取り入れて、個々の力に応じて、食事の下ごしらえから、配膳、食事、後片付けなど工夫をしながら、利用者や職員と一緒に食事を楽しんでいる。	
24 (64)	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	入浴は、日曜日以外は、15時から18時までを目標に、職員の都合ではなく、利用者の希望やタイミングに合わせてゆっくりゆったり楽しめるよう支援している。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
25 (66)	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした活躍できる場面づくり、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	生活歴や趣味嗜好などを把握し、個々の特技や能力が活かせるように、メダカの飼育、外出、花壇づくり等の楽しみごとや、お茶の準備、買い物、テーブル拭き、掃除等の活躍できる場面づくりをしている。	
26 (68)	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	近くの地蔵様へのお参り、公園の散歩、日常的なドライブ、買い物に行くなど、希望にそって外出できるよう支援している。季節に応じた花見(冠梅苑、あじさい苑等)に出かけている。	
(4) 安心と安全を支える支援			
27 (74)	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が、「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び言葉や薬による拘束(スピーチロックやドラッグロック)を正しく理解しており、抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。	運営者及び全職員が正しく理解しており、抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。	
28 (75)	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	運営者及び全職員が鍵を掛けることの弊害を理解しており、居室や日中玄関に鍵はかけていない。利用者の安全を考慮して、入口に小さい鈴をつけてそっと見守るよう配慮している。	
29 (78)	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	誤薬、転倒防止などの知識について、研修を行い、ヒヤリはっと・事故報告書に記載し、再発防止対策を検討してユニット内で回覧して、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいるが、全職員の共有がされていない。	・ヒヤリはっと、事故報告書の全職員の共有方法の検討
30 (79)	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	緊急時対応マニュアルに従い、夜間想定避難訓練や、消防訓練、普通救命講習を行っているが、利用者の急変や事故発生時に備えた、救急救命訓練は定期的に行われていない。	・定期的な救急救命訓練の実施
31 (81)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	運営推進会議の協力による火災訓練を年1回実施しているが、災害対策時の地域への協力依頼をしていない。避難場所は、日頃から確認している。	・地域への協力依頼

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
32 (84)	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めているとともに、必要な情報は医師や薬剤師にフィードバックしている。	服薬は、手渡しと服用確認を行い、個々の既往歴、現在の健康状態、治療状況、副作用等はファイルを通じて全職員が把握している。必要な情報は医師等にフィードバックしている。	
33 (86)	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力量に応じた支援をしているとともに、歯ブラシや義歯などの清掃、保管について支援している。	毎食後、職員の声かけや見守りで歯磨きをしている。歯ブラシや義歯など一人ひとりの状態に応じて、保管、清掃、消毒の支援をしている。	
34 (87)	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事、水分の摂取量は毎日記録し、栄養バランスも管理栄養士のチェックも受けており、一人ひとりの状態に応じた支援をしている。	
35 (88)	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)。	感染症対策マニュアルに基づき、手洗いやうがいの励行、インフルエンザの予防接種、冷蔵庫、まな板、食器の消毒や清潔保持など、職員全員で感染症予防対策に取り組んでいる。	
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり			
36 (91)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮するとともに、生活感や季節感など五感に働きかける様々な刺激を採り入れて、居心地よく・能動的に過ごせるような工夫をしている。	ホーム内の温度や明るさは、適度に調節され、換気にも配慮し、廊下には椅子を配置したり、壁には絵手紙などの作品展示をして、居心地良く過ごせる共用空間の工夫をしている。	
37 (93)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ベッド、タンス、椅子、など備え付けとしているが、使い慣れた家具や生活用品、仏壇などが持ち込まれ、居心地良く過ごせるような工夫がされている。	

自己評価書

【ホームの概要】

事業所名	医療法人 仁心会 グループホームあつぷる
所在地	山口県宇部市昭和町1丁目9-3
電話番号	0836-35-7691 , 0836-35-7689
開設年月日	平成 13 年 4 月 1 日

【実施ユニットの概要】 (12 月 20 日現在)

ユニットの名称	あつぷる1			
ユニットの定員	9 名			
ユニットの 利用者数	9 名	男性 0 名	女性 8 名	
	要介護 1	2	要介護 4	
	要介護 2	4	要介護 5	
	要介護 3	2	要支援 2	
年齢構成	平均 84 歳	最低 73 歳	最高 99 歳	

【自己評価の実施体制】

実施方法	<ul style="list-style-type: none"> ・ユニット内、全スタッフに自己評価票を1部ずつ配布し、記入してもらう。 ・その意見をまとめ、又、話し合っ、記入をしたりして実施。 ・記入は、管理者 橋本が行なう。
評価確定日	平成 19 年 12 月 20 日

【サービスの特徴】

入居者のその人らしさを大切に。共にある。ということ念頭に置いて、自尊心を(人生の先輩と敬う気持ちを忘れず)傷つけないよう、ご本人の望みを引き出していけるようにする。

そして、生活をするということを軸に、その人に応じた生活の手助けの方法を見つけられ、入居者の方、それぞれが主体的な生活を営むことができるよう接していくことを心掛けています。

そして、生活の中にぬくもりと、笑顔で過ごせる時が、少しでも多くあることを願って、地域との交流(行事への参加)を大切に、又、様々なボランティアの方との交流を深めています。

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取 組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>理念に基づく運営</p> <p>1. 理念の共有</p>			
1 (1)	<p>地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。</p>		全職員で、これまでの理念を見直しのための討議を行ない、地域の方との交流の下、安心した暮らしが続けられるような支援を理念の柱にした。
2 (2)	<p>理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>		ホームの入り口と、スタッフルームに掲示しており、共有している。 朝の申し送りに全員で理念を唱和する。又、カンファレンスの際に、ケアの中で具体化していきたい。
3	<p>運営理念の明示 管理者は、職員に対し、事業所の運営理念を明確に示している。</p>		事業の目的と運営方針を重要事項説明書に掲げている説明のみ行っている。 スタッフルームに掲示し、スタッフ全員が確認できるようにしたい。
4	<p>運営者や管理者の取り組み 運営者や管理者は、それぞれの権限や責任を踏まえて、サービスの質の向上に向け、職員全員と共に熱意をもって取り組んでいる。</p>		運営者が専門としている人工透析を行なっている方を今年初めて入居者として迎え、新たな分野のケアをスタッフ全員で取り組んでいる。
5	<p>家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。</p>		運営推進会議の際にのみ、お伝えしている。 地域の方へのあつぷる便りを作って配布したい。
<p>2. 地域との支えあい</p>			
6	<p>隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りしてもらえようような日常的な付き合いができるよう努めている。</p>		散歩に出た時、ご近所の人と出会えば、挨拶やお話をさせてもらっている。 ・気軽に寄っていただけるような工夫(遊びに来てもらってレクリエーション等) ・ご家族から出た意見の駐車場への看板設置
7 (3)	<p>地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p>		自治会に加入していて、回覧板のやり取り、担当部署の草取り、落ち葉の掃除を行なっている。又、行事では地域の文化祭、納涼祭、運動会、もちつき、どんど焼き、と、見学が主ではあるが参加させてもらっている。
8	<p>事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p>		スタッフの研修と共に、普通救命講習会を実施(1回)(地域の方約10名の参加を頂く) 運営推進会議の際、自治会長さんへお願いのみしている。 ・スタッフミーティングで、志気を高める ・転倒防止として、リハビリ体操の紹介等を行なう

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
9	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	自己評価を全職員で行い、外部評価の結果はミーティングで報告し、改善計画の立案と、実践してみたことを再びミーティングで話し合っている。	
10 (5)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービスに活かしている。	活動の報告と、議事録を全ご家族へ配布する事で、当日、会議に参加できなかったご家族からも意見を頂くことができる。又、地域との交流に向けての意見交換がある。	スタッフ全員への報告
11 (6)	市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町と共にサービスの質の向上に取り組んでいる。	基準省令に基づく運営方法について、と、協力を頂けるようなボランティアの紹介で連絡を取り合っている。	
12	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用するよう支援している。	実施していない。	スタッフで学ぶ機会を作る。
13	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	研修で。又、資料があって、いつでも読むことができるようになっていて、スタッフ全員で防止に努めている。	利用者さんの話を傾聴していく。
4. 理念を実践するための体制			
14	契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約したりする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	実施しているつもりだが、文章の解釈に思い違いがあったりもするので、ご家族等の思いをしっかりと聴いていきたい。	ご家族等の意見を傾聴
15	運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者さんが話しやすいようにコミュニケーションを多くとっている。又、ボランティアの方にも話を傾聴してもらおう。 ・不満や苦情の話が出れば、ご家族にも報告したり、ミーティングで話し合う事も。 	改善策の立案
16 (7)	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	家族向けホーム便りを二ヶ月に1回発行し、毎月の行事に撮った写真を掲示、配布。ご家族の来訪時に暮らしぶり、健康状態の報告をし、コミュニケーションをはかるよう努めている。又、預り金をしている方には、出納帳作り、来訪時、明細・領収レシートを渡す。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
17	情報開示要求への対応 利用者及び家族等からの情報開示の要求に応じている(開示情報の整理、開示の実務等)。		
18 (8)	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させているとともに、相談や苦情を受け付ける窓口及び職員、第三者委員や外部機関を明示し、苦情処理の手続きを明確に定めている。		第三者委員の設置
19	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。		
20 (9)	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、夜間を含め必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。		
21 (10)	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。		利用者へのダメージを防ぐ配慮
5. 人材の育成と支援			
22 (11)	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。		
23	職員配置への取り組み 多様な資質(年代、性別、経験等)をもった職員を配置することにより、多様な利用者の暮らしに対応している。		
24 (12)	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。		全スタッフの計画的参加

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。		
26	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている。		
27	職員の業務に対する適切な評価 運営者は、高い専門性やリスクを要求される管理者や職員の業務に対し、処遇等における適切な評価に努めている。		
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
28	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。		ご本人の来訪、又は訪問すること。
29	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。		
30	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。		ご家族と本人のお話をよく聴いて、他のサービスも必要と思われる時は必ず伝え相談する。
31 (13)	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。		ご本人やご家族の見学は、いつでもできる機会を設けられるように努めている。又、相談によって、ご本人がお茶等を一緒にしてもらう時もある。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
32 (14)	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。		食事の準備で、もりつけや調理の仕方等を話し合いながら行う。生活の知恵のようなものを色々と学ばせてもらうことがあり、その時はお礼の言葉を伝えている。又、外出先も相談している。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
33	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	日常生活の中での出来事を来訪されたご家族に報告し、一緒に支えていっている間柄なのだという思いを伝えている。		
34	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している。	ご本人とご家族の関係をより良く理解するよう努め、他スタッフにも伝えている。		
35	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	ご家族を通じて、できるだけ努めている。		
36	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	利用者同士の関わりがスムーズに行くよう、間に入ってコミュニケーションをとったり、仲間意識がもってもらえるよう関わる努力をしている。		
37	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。			そういう利用者がいらっしやれば良いつきあいを大切にしたい。
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1. 一人ひとりの把握				
38 (15)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の関わりの中で、言動からの把握に努め、スタッフ間で検討している。		アセスメントとカンファレンスの充実
39	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	ご家族等から、できる限り、情報を集める努力をしている。		
40	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	スタッフ間の申し送り、ご家族からの情報を含め把握するよう努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
41 (16)	チームで作る利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	本人、家族、必要な関係者との話し合いと、スタッフ間からの意見を聴いて作成している。	アセスメントとカンファレンスの充実
42 (17)	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	計画に記載した期間、及び実情に合わせての見直しをして、介護計画を作成している。	アセスメントとカンファレンスの充実
43	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個別記録に記入し、情報を共有している。	
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
44 (18)	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	24時間の医療連携によって、健康管理を行っている。運営者、(Dr.)又は、訪問看護師にいつでも指示をもらい、往診、受診も可能としている。関連病院と、日中の必要な転医の移送はサービスでしている。	
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
45	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	ボランティアの方に思いの傾聴をしてもらっている。	
46	事業所の地域への開放 事業所の機能を、利用者のケアに配慮しつつ地域に開放している(認知症の理解や関わり方についての相談対応・教室の開催、家族・ボランティア等の見学・研修の受け入れ等)。	今年は1回だけだったが、普通救命講習会を実施。(ご家族、ボランティアの方は、見学と認知症の方への理解についての説明)	地域の方への呼びかけ 教室の開催
47	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他の介護支援専門員やサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている。	特養への申し込みや、骨折術後のリハビリのための他の施設入居の相談等、行った。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
48	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。		
49 (19)	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。		
50	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	・49に同じ	
51	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員(母体施設の看護師等)あるいは地域の看護職(かかりつけ医の看護職、保健センターの保険師等)と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。		
52	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。		
53 (20)	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。		終末期のあり方 同意書の作成
54	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	実施していない。 現在は、重度化や終末期には、かかりつけ医、関連病院、他施設へ転居、入院となっている。	当事業所での「できること、できないこと」の見極め
55	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
56 (21)	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。</p>	<p>日々の場面やミーティング、勉強会の機会を通じて、スタッフ全員が気をつけるように努めている。</p>	<p>損ねるような言葉かけや対応がどのような内容かを整理する。</p>
57	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>日々の生活の中で、できるだけ多く「何をしてほしい」「どうしたいのか」を話しやすい声掛けをするよう努めている。</p>	
58	<p>“できる力”を大切にされた家事への支援</p> <p>家事(調理、配膳、掃除、洗濯、持ち物の整理や補充、日用品や好みの物などの買い物等)は、利用者の“できる力”を大切にしながら支援している。</p>	<p>家事については、それぞれ利用者の状態に合わせて、してもらえれば助かるような声掛け等によって行ってもらいながら、すすめている。</p>	
59 (22)	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>入浴や食事の時間帯は定めているが、その時々希望や健康状態に合わせて支援している。</p>	
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
60	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>ご家族と一緒に今までの行きつけのお店へ行かれる場合や、地域の中にある理美容店に行かれる場合がある。カット、毛染め、ご本人の希望に応じている。</p>	
61 (23)	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>肉、魚のダメな方への替りは、玉子料理ぐらいだが、利用者スタッフと一緒に、準備から片付けまでしている。スタッフ一緒に物を食べている。</p>	
62	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて、日常的に楽しめるよう支援している。</p>	<p>おやつのは好みは、日替わりで出させてもらったり、飲み物は3種類くらいから選んでもらっている。お酒は、アルコール依存の方がおられるため出していない。</p>	
63	<p>気持ちのよい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。</p>	<p>それぞれの排泄パターンを理解し、排泄間隔も考慮してトイレ誘導も行っている。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
64 (24)	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しむように支援している。	入浴は、月～土の15:00～18:00と定めている。希望に応じ入る順番は毎日変わります。		夜間入浴は勤務ローテーションが課題
65	安眠休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり、眠れるよう支援している。	昼夜の逆転にはならないように気を配って、ご本人の状況に応じて眠れる支援をしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
66 (25)	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした活躍できる場面づくり、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	食事作り、お茶入れ、買い物、外出、掃除、新聞取り等、一人ひとりの力を活かした場面を作るよう努めている。 (ご本人の意向の確認をする)		・昨年より公園内に小さな花壇を作り、時々、手入れや花を植えている。 ・めだかを飼育している。
67	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や状態に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	買い物時の支払い、お金の所持については一人ひとりの状態に応じてしています。		
68 (26)	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	近くにある地藏様へのお参り、公園への散歩、スーパーへの買い物と、それを希望にできるだけそうよう努めて出かけています。		
69	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	約1ヶ月に1回、ユニット全体の外出を企画。又、地域の行事の見学や参加は、利用者の希望を含め出かけ、協力してもらえご家族いらっしゃれば一緒に行きます。		
70	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	本人自らされることはないが、状況を見て、スタッフより連絡して、話をされるよう支援することはある。		
71	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	家族の方に、ご本人の馴染みの方たちが訪問していただけるよう、スタッフより、声をかけています。又、気軽に来てもらえるように説明も。		
72	家族の付き添いへの支援 利用者や家族が家族の付き添いを希望したときは、居室への宿泊も含め適切に対応している。	現在は全くないが、入居時等に居室での宿泊が可能なことを伝えていきます。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
73	家族が参加しやすい行事の実践 年間の行事計画の中に、家族が参加しやすい行事を取り入れ、家族の参加を呼びかけている。		
(4) 安心と安全を支える支援			
74 (27)	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び言葉や薬による拘束(スピーチロックやドラッグロック)を正しく理解しており、抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。		スタッフ間の研修
75 (28)	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。		
76	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。		
77	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。		
78 (29)	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。		アセスメントの充実
79 (30)	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。		定期的訓練の実施
80	再発防止への取り組み 緊急事態が発生した場合や、発生の可能性が見られた時には、事故報告書や”ヒヤリはっと報告書”等をまとめるとともに、発生防止のための改善策を講じている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
81 (31)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。		市の災害マップの確認
82	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。		家族とのリスクについての話し合い
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
83	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。		1日2回のバイタル測定と、異変を感じた時には速やかに医師又は看護師に報告し、スタッフ間で情報を共有し、対応している。
84 (32)	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めているとともに、必要な情報は医師や薬剤師にフィードバックしている。		各個人ファイルに目的、副作用、用量の説明書を配布している。又、症状の変化があれば、速やかに医師の方へ受診、連絡を行っている。
85	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる。		一日の水分摂取量の確認。体操を取り入れる。又、寒天パウダーを使ってゼリーの水分補給を行ったり工夫している。
86 (33)	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしているとともに、歯ブラシや義歯などの清掃、保管について支援している。		毎食後に声掛けを行う。必ずしておきたい方へは声掛けに工夫する。歯ブラシ、夜間のはずした義歯は、スタッフルームに保管するので、定期的消毒を行っている。
87 (34)	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。		食事と水分摂取量の記録をしていて、おおまかに把握している。透析の方の摂取内容について栄養士へ相談したり、食事のすすまない方に、家族との相談で甘酒を飲用してもらったりする。
88 (35)	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)。		マニュアルを作成している。まな板、包丁、ふきん等の消毒は定期的に行っている。インフルエンザの予防接種、ノロウイルスの対策用液を作っている。
89	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。		給食センターから直接、材料を頂く。保管場所に気を配っている。調理用具と冷蔵庫の消毒は定期的に行っている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり			
90	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	実施していない(ユニット玄関には季節感のある飾りをしている)	建物周囲の工夫
91 (36)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮するとともに、生活感や季節感など五感に働きかける様々な刺激を採り入れて、居心地よく・能動的に過ごせるような工夫をしている。	フロアの飾りつけは季節感も考えながら、利用者の意見も取り入れて行っている。又、居心地よいのんびり過ごしてもらえる空間にしたいと考えている。	
92	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	フロアから離れた空間にソファと飾りものをして、思い思いに過ごせる居場所になるよう努めている。	
93 (37)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	一人ひとりの状態に配慮しつつ、ご本人の好みのものを飾ってもらったりしてもらおうよう、ご本人や家族に話している。	
94	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	一日に何度か空気の入換えをするよう窓を開ける時を作ったりする。又、利用者の状況(咳、発汗等)に応じて、こまめに温度調整している。	
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
95	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送ることができるように工夫している。	居室、フロア、廊下、トイレ、浴室と、手すりは充実している。	
96	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	ご本人がわかることはしてもらうよう見守り、できない所に、さりげない声掛けをして、一部介助するよう全スタッフが心掛けている。	
97	建物の外周や空間の活用 建物の外周やベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	建物の道路をはさんである公園に小さい花壇を作っていて、花が咲いている時は、楽しみとなる。ベランダは、マットや雑巾を干しに行き下さる。	

項目		取り組みの成果 (該当する箇所を 印で囲むこと)	
. サービスの成果に関する項目			
98	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	ほぼ全ての利用者の 利用者の1 / 3 くらいの	利用者の2 / 3 くらいの ほとんど掴んでいない
99	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある。	毎日ある たまにある	数日に1 回程度ある ほとんどない
100	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。	ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが	利用者の2 / 3 くらいが ほとんどいない
101	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている。	ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが	利用者の2 / 3 くらいが ほとんどいない
102	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。	ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが	利用者の2 / 3 くらいが ほとんどいない
103	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。	ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが	利用者の2 / 3 くらいが ほとんどいない
104	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。	ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが	利用者の2 / 3 くらいが ほとんどいない
105	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。	ほぼ全ての家族等と 家族の1 / 3 くらいと	家族の2 / 3 くらいと ほとんどできていない
106	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。	ほぼ毎日のように たまに	数日に1 回程度 ほとんどない
107	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	大いに増えている あまり増えていない	少しずつ増えている 全くいない
108	職員は、生き活きと働けている。	ほぼ全ての職員が 職員の1 / 3 くらいが	職員の2 / 3 くらいが ほとんどいない
109	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが	利用者の2 / 3 くらいが ほとんどいない
110	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	ほぼ全ての家族等が 家族等の1 / 3 くらいが	家族等の2 / 3 くらいが ほとんどできていない

自己評価書

【ホームの概要】

事業所名	グループホームあつぷる
所在地	山口県宇部市昭和町1-9-3
電話番号	0836-35-7689
開設年月日	平成 13 年 4 月 1 日

【サービスの特徴】

人と人としてふれあい、一緒に生活していく中でなじみの関係・信頼関係を築き、“あなたが居てよかった”“ここが好きよ”と言ってもらえるグループホームあつぷるでいたいと思います。ここに訪れる方々が幸せな気分になれますように。

【実施ユニットの概要】 (12 月 19 日現在)

ユニットの名称	あつぷる 2			
ユニットの定員	9 名			
ユニットの利用者数	9 名	男性 0 名	女性 9 名	
	要介護 1	0	要介護 4	3
	要介護 2	4	要介護 5	0
	要介護 3	2	要支援 2	0
年齢構成	平均 85 歳	最低 75 歳	最高 93 歳	

【自己評価の実施体制】

実施方法	自己評価の意義についてしっかり説明した上で、自己評価票を各自に配布・分担し、その後ミーティングの際に全職員で自己評価を行いました。
評価確定日	平成 19 年 12 月 19 日

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印、(取 組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>理念に基づく運営</p> <p>1. 理念の共有</p>			
1 (1)	<p>地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。</p>		
2 (2)	<p>理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>		理念を具体的なケアに活かしていけるよう、日々、理念を意識し実践に向けて取り組んでいきたい。
3	<p>運営理念の明示 管理者は、職員に対し、事業所の運営理念を明確に示している。</p>		
4	<p>運営者や管理者の取り組み 運営者や管理者は、それぞれの権限や責任を踏まえ、サービスの質の向上に向け、職員全員と共に熱意をもって取り組んでいる。</p>		
5	<p>家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。</p>		理念についても、もっと深く理解していただけるよう、これからも発行していきたい。
<p>2. 地域との支えあい</p>			
6	<p>隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りしてもらえようような日常的な付き合いができるよう努めている。</p>		
7 (3)	<p>地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p>		
8	<p>事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p>		地域の独居老人の方をお招きし、ふれあいを提供する場を提供していきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
9	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	意義についてしっかり説明した上で、自己評価を全職員で行っている。また、外部評価の結果をミーティングで話し合い改善できるよう取り組んでいる。	計画を立て取り組んでいきたい。
10 (5)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービスに活かしている。	毎回、自己評価の内容、外部評価の結果を運営推進会議で報告し、参加メンバーと話し合いを行い意見をサービスに活かすようにしている。	
11 (6)	市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町と共にサービスの質の向上に取り組んでいる。	わからない事や相談事を市に積極的に教わりに行っている。	
12	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用するよう支援している。	以前、活用しておられた方がいらっしまったので理解しているが、現在は必要性のある利用者様がいらっしないので職員間の話し合いは行っていない。	ミーティングの際などに勉強会を開き、もう一度詳しく勉強していきたい。
13	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	研修等で学ぶ事はあるが、職場研修をして学んだ事はあまりない。	職場研修で議題として取り上げたい。ミーティングの際に高齢者虐待防止関連法についてより深く学び対応方法などについても学んでいきたい。
4. 理念を実践するための体制			
14	契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約したりする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約する際は、契約書・重要事項説明書を一一つ説明したうえで、疑問点や不安な点をお聞きしてから同意を得るようにしている。	
15	運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	折に触れて会話していく中で、意見・不満・苦情をお尋ねしている。また、外部者への相談方法も掲示している。	
16 (7)	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	写真を掲示し、来訪時に暮らしぶりが一目でわかるようにし、ご説明もしている。健康状態に異変があれば、ご家族にその都度報告している。また、職員の異動などがあれば、ご家族にお伝えすると共にあつるだよりにも掲載している。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
17 情報開示要求への対応 利用者及び家族等からの情報開示の要求に応じている(開示情報の整理、開示の実務等)。	要求があれば開示している。家族会の際に介護記録やケアプランに目を通してもらうようにしている。		
18 (8) 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させているとともに、相談や苦情を受け付ける窓口及び職員、第三者委員や外部機関を明示し、苦情処理の手続きを明確に定めている。	運営推進会議や家族会などの来訪時に、要望等がないか聞くように心がけている。意見箱を設置したり、相談や苦情を受け付ける外部機関を玄関に掲示し紹介している。苦情手続きは明確に定めてないが、ご家族から頂いた苦情について職員間で話し合い改善に向け取り組んでいる。		第三者委員を設けたり、苦情処理マニュアルを作成し、より良い運営に努めていきたい。
19 運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	ミーティングの際にスタッフに意見を聞き、管理者が代表で運営者に伝え、反映してもらっている。		
20 (9) 柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、夜間を含め必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。	職員全員で助け合い、その都度、勤務調整・人員確保ができている。		
21 (10) 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	職員の異動は、一年間はなく、なじみのスタッフにより支援が行われている。新しいスタッフが入った際は使用者様に紹介し、利用者様からいろいろな事を教えていただくような接し方をしてもらっている。		
5. 人材の育成と支援			
22 (11) 職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	職員の経験やレベルに合った研修を受講してもらうようにしている。研修に参加した際は報告書を作成してもらい、全職員が回覧し、情報を共有している。また、職員の資格取得も支援している。		
23 職員配置への取り組み 多様な資質(年代、性別、経験等)をもった職員を配置することにより、多様な利用者の暮らしに対応している。	20代から60代の、さまざまな資格・経験を持った職員がおり、多様な利用者様の暮らしに対応している。利用者様の事情もあり、男性職員は雇っていないが、外出時は男性の運転手さんにも手伝ってもらっている。		
24 (12) 同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	地域にある同系列の施設の行事に誘って頂けるので、訪問や交流する機会はあるが、勉強会などは合同では行われていない。		合同の勉強会を行い、お互いにサービスの質の向上に取り組んでいきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。		
26	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている。		
27	職員の業務に対する適切な評価 運営者は、高い専門性やリスクを要求される管理者や職員の業務に対し、処遇等における適切な評価に努めている。		
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
28	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。		
29	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。		
30	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。		
31 (13)	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
32 (14)	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
33	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。		
34	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している。		
35	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。		
36	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。		
37	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。		会いに行ったり、お手紙を出したりし、より良い関係を続けていけるように取り組んでいきたい。
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1. 一人ひとりの把握			
38 (15)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。		
39	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。		
40	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
41 (16)	チームで作る利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	ケアプランを立てる際、ご家族に要望をお聞きしている。また、月一回のミーティングの際にカンファレンスを行い、全職員の意見を反映するようにしている。	
42 (17)	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	変化が生じた場合は、ご本人やご家族、スタッフと話し合い対応している。毎月のミーティングの際にも見直しの必要性がないか話し合っている。	
43	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	ケアプランにあがっている事柄に関する情報を重点的に記録するように心がけ、介護計画に活かせるように努めている。また、日報は全職員に目を通してもらい情報を共有している。	
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
44 (18)	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	医療連携体制、在宅総合診療を活かし24時間安心して暮らして頂けるように支援している。	
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
45	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	必要性が出てきたら、協力して支援する。	運営推進会議への警察・消防の参加の呼びかけは行ったが、ご参加いただけていない。これからも会議への参加の呼びかけをしていきたい。
46	事業所の地域への開放 事業所の機能を、利用者のケアに配慮しつつ地域に開放している(認知症の理解や関わり方についての相談対応・教室の開催、家族・ボランティア等の見学・研修の受け入れ等)。	あつぷるだより(地域版)に、認知症についてのコラムを載せるなどしてしる。	
47	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他の介護支援専門員やサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている。	現在は必要性がないため、他のサービス事業者と話し合っていないが、必要になったら話し合いをし支援する。	冬の寒い時期に一度、男性の美容師さんの訪問カットサービスを利用することを企画している。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
48	<p>地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。</p>		今後、必要性が出てきたら運営推進会議の際などを利用して地域包括支援センターと協働していきたい。
49 (19)	<p>かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>		
50	<p>認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。</p>		必要に応じ、認知症の専門医への受診もお勧めしていきたい。
51	<p>看護職との協働 利用者をよく知る看護職員(母体施設の看護師等)あるいは地域の看護職(かかりつけ医の看護職、保健センターの保険師等)と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。</p>		
52	<p>早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。</p>		
53 (20)	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。</p>		
54	<p>重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。</p>		
55	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		ご家族や、あつぷる入居前・入居後の施設職員と十分な話し合いや情報交換を行い、連携を心がけている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
56 (21)	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。</p>	自尊心を傷つける事がないように言葉遣いや記録物等の取り扱いに注意している。	どんな場面でも冷静に対応し、誇りやプライバシーを損ねるような言葉遣いや対応をしないよう常に気をつけていきたい。
57	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	利用者様が、自己の思いを表現できるようにジェスチャーも交えながら説明し、自己決定をしやすいように支援している。	
58	<p>“できる力”を大切にされた家事への支援</p> <p>家事(調理、配膳、掃除、洗濯、持ち物の整理や補充、日用品や好みの物などの買い物等)は、利用者の“できる力”を大切にしながら支援している。</p>	利用者様のレベルや好みに合わせ、苦痛にならないように気をつけながら“できる力”を引き出せるように支援している。	
59 (22)	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	1日の流れはだいたい決まっているが、体調や機嫌により起床時間や朝食開始時間を個別対応するようにしている。	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
60	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	行事の時には、いつもよりおしゃれな装いで参加して頂けるよう支援している。行きつけの理容室はカットと一緒に化粧もして頂け、利用者様にとっても喜んで頂いている。	ファッションショーを行い、利用者様におしゃれを楽しんで頂けるよう企画中である。
61 (23)	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	お誕生日会などは利用者様の好みをお聞きし、メニューを変更したりしている。台所仕事がお好きな利用者様にはお手伝いをお願いし、一緒に食事作りや片付けを行なっている。食事は職員も一緒に同じ物を食べている。	
62	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて、日常的に楽しめるよう支援している。</p>	お花見やお正月などの際は、望まれる方にはお酒を振舞っている。朝のティータイムやおやつメニューは利用者様の声を活かし、様々な物をお出ししている。	
63	<p>気持ちのよい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。</p>	排泄の失敗やおむつの使用を減らす為に、1人ひとりにあった時間にトイレ誘導できるよう、利用者様からのサインを見逃さないよう行動などを観察している。なるべく自力で、トイレで排泄して頂くように腹部マッサージや水分摂取量の管理に努めている。	排泄チェック表をケアに活かしていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
64 (24)	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	入浴は15時からでき、状態と希望により自由に入れる支援をしている。日曜日は清拭を行なっている。便汚染時などは随時、シャワー浴を行なっている。		
65	安眠休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり、眠れるよう支援している。	1人ひとりの睡眠パターンを把握し、個々に合わせた支援をしている。食後30分は臥床して頂けるよう声かけしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
66 (25)	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした活躍できる場面づくり、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	個人の生活歴や好みに合わせ、楽しみ、張り合いになる時間を日常的に支援している。		
67	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や状態に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	利用者様の希望や状態を考慮し、ご本人やご家族と相談しながら金銭所持・使用の支援を行うようにしている。		
68 (26)	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	月1～2回程度は苑外レクリエーションや買物に出かけている。散歩などにもお誘いし、楽しい時間を提供できるようにしている。		
69	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	日常会話の中で利用者様が「～に行ってみたいね」と言われた所に苑外レクリエーションなどで行けるよう心がけている。普段行けないような場所への外出支援はご家族にも協力を頂き、支援している。		個別外出の機会を作っていきたい。
70	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	希望があれば電話をかけ、お話をしている。絵手紙の作品や年賀状をご家族に送ったりしている。		
71	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	面会時間に制限はなく、誰でも気軽に立ち寄って頂けるようにしている。また、来訪時には、居心地のよい和やかな雰囲気でお迎えするよう心がけている。		
72	家族の付き添いへの支援 利用者や家族が家族の付き添いを希望したときは、居室への宿泊も含め適切に対応している。	家族の宿泊もできるようにソファベッドを用意している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
73	家族が参加しやすい行事の実践 年間の行事計画の中に、家族が参加しやすい行事を取り入れ、家族の参加を呼びかけている。		
(4)安心と安全を支える支援			
74 (27)	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び言葉や薬による拘束(スピーチロックやドラッグロック)を正しく理解しており、抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。		今後、「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」やスピーチロックやドラッグロックについてミーティング等で勉強会を行っていきたい。
75 (28)	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。		
76	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。		
77	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。		
78 (29)	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。		ミーティング等で今後予測されるリスクについて話し合っていく必要がある。
79 (30)	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。		これからも定期的に訓練を行い、緊急時に活かせる技術を身につけていきたい。
80	再発防止への取り組み 緊急事態が発生した場合や、発生の可能性が見られた時には、事故報告書や”ヒヤリはっと報告書”等をまとめるとともに、発生防止のための改善策を講じている。		事故・ヒヤリはっと報告書の記録は、回覧した後に整理され、改善策も講じている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
81 (31)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。		今後も定期的に訓練を続け、確実な避難誘導が出来るように備えていきたい。また、昼間の避難訓練をする必要がある。
82	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
83	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。		
84 (32)	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めているとともに、必要な情報は医師や薬剤師にフィードバックしている。		
85	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる。		
86 (33)	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしているとともに、歯ブラシや義歯などの清掃、保管について支援		
87 (34)	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。		
88 (35)	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)。		
89	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり			
90	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工	利用者様と共に作った作品や、観葉植物・花を飾っている。外出時、靴を履きかえ易いように、椅子を設置している。	
(36) 91	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮するとともに、生活感や季節感など五感に働きかける様々な刺激を採り入れて、居心地よく・能動的に過ごせるような工夫をしている。	共同の空間は、家庭的な雰囲気と季節感をかもし出せるよう、季節に合った絵を描き、利用者様に貼り絵をしていただいたものを壁に飾っている。また、行事等で撮った写真を飾ったりし、利用者様にとって親しみやすい空間になるよう努めている。	
92	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	リビング・廊下・談話室、それぞれに椅子やソファを設置し、過ごす場所を選べるようにしている。	
(37) 93	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	利用者様が安心して過ごせるよう、使い慣れた家具や同じ様式の家具、馴染みのある生活用品や装飾品・仏壇等を持ち込んで頂いている。	
94	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	温度・湿度計と、利用者様の様子を見たり、声を聞いたりしながら、冷暖房・加湿器・換気で調整を行っている。	
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
95	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送ることができるように工夫している。	居室は利用者様の身体状態に合わせ模様替えなどを行っている。洗面所の手拭タオルなどは、お一人お一人に合った場所に置き、ご自分で取って頂きやすいようにしている。	
96	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	混乱や失敗を起こされた姿を見た際は職員間で報告し合い、話し合いを行い、わかる力を活かせるような対策を立てるようにしている。	
97	建物の外周リや空間の活用 建物の外周リやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	ベランダのプランターで花などを植え、水やりを利用者様と一緒にやっている。隣接する公園にもチューリップやマリーゴールドを植え、散歩に行った際に観賞している。	

項目		取り組みの成果 (該当する箇所を 印で囲むこと)	
. サービスの成果に関する項目			
98	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	ほぼ全ての利用者の 利用者の1 / 3 くらいの	<input checked="" type="checkbox"/> 利用者の2 / 3 くらいの <input type="checkbox"/> ほとんど掴んでいない
99	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある。	<input checked="" type="checkbox"/> 毎日ある <input type="checkbox"/> たまにある	<input type="checkbox"/> 数日に1回程度ある <input checked="" type="checkbox"/> ほとんどない
100	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。	ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが	<input checked="" type="checkbox"/> 利用者の2 / 3 くらいが <input type="checkbox"/> ほとんどいない
101	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。	<input checked="" type="checkbox"/> ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが	<input type="checkbox"/> 利用者の2 / 3 くらいが <input checked="" type="checkbox"/> ほとんどいない
102	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。	ほぼ全ての利用者が <input checked="" type="checkbox"/> 利用者の1 / 3 くらいが	<input type="checkbox"/> 利用者の2 / 3 くらいが <input checked="" type="checkbox"/> ほとんどいない
103	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。	<input checked="" type="checkbox"/> ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが	<input type="checkbox"/> 利用者の2 / 3 くらいが <input checked="" type="checkbox"/> ほとんどいない
104	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。	<input checked="" type="checkbox"/> ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが	<input type="checkbox"/> 利用者の2 / 3 くらいが <input checked="" type="checkbox"/> ほとんどいない
105	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。	ほぼ全ての家族等と 家族の1 / 3 くらいと	<input checked="" type="checkbox"/> 家族の2 / 3 くらいと <input type="checkbox"/> ほとんどできていない
106	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。	ほぼ毎日のように <input checked="" type="checkbox"/> たまに	<input type="checkbox"/> 数日に1回程度 <input checked="" type="checkbox"/> ほとんどない
107	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	大いに増えている あまり増えていない	<input checked="" type="checkbox"/> 少しずつ増えている <input type="checkbox"/> 全くいない
108	職員は、生き活きと働けている。	<input checked="" type="checkbox"/> ほぼ全ての職員が 職員の1 / 3 くらいが	<input type="checkbox"/> 職員の2 / 3 くらいが <input checked="" type="checkbox"/> ほとんどいない
109	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが	<input checked="" type="checkbox"/> 利用者の2 / 3 くらいが <input type="checkbox"/> ほとんどいない
110	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	ほぼ全ての家族等が 家族等の1 / 3 くらいが	<input checked="" type="checkbox"/> 家族等の2 / 3 くらいが <input type="checkbox"/> ほとんどできていない